

## 大草谷津田生きものの里 自然観察会

### カエルぴよこぴよこ何種類

木下順次（千葉市）

日 時：2022年6月19日（日）10:30～12:00 天候：曇り

参加者：20名（大人10名 子ども10名）

担当指導員：小川 木下 芳我

梅雨真ただ中の6月の観察会は、いつも当日の天気が心配だ。天気予報は前日まで、雨予報であったが、幸い当日は曇りだった。まあ だからテーマがなんとなくカエルだったりカタツムリだったりするわけで、雨でも楽しく観察会はできるのだが。

コロナ下での観察会は事前申込制である。15名の募集定員ではあるが、少し多めの受付をしていただいている。過去何度も当日の欠席者が出て班構成が崩れてしまった経験からの工夫だ。4名の欠席が出たが、3班で観察会を行うことができた。

各班とも貸し出した水網を持ち、人数がそろった班から出発した。今回最も時間をかきたいのは、田んぼ周辺の畔や、水路の周りだ。ただし、道中で目線の低い子どもは次々にいきものを見つけては、見せに来るので、その都度足を止めた。カタツムリと思ってもよくみると蓋があるから、これはタニシ、カタツムリももちろんいるが、他にも陸生の貝がたくさんいるんだよと教えてあげるが、何となくわかったような わからないような表情である。なるべくせかさず、見つけたいきものに関心を示せばしっかりと観察しながら、田んぼを目指した。

最後の班を担当したので、最後に田んぼに到着した。残りの2班がすでに歩んだであろうところを避けて、少し足元の緩んだ斜面林の端に進み、カエルを探した。この時期は、カエルも成体になりたてで、小さなアカガエル、アマガエルがたくさん見つかった。成長したカエルも何匹か見つかったので、のどの色の違い（メスを求めて鳴くオスは黒ずむ）や、前足とあと足の指数を数えたり、透明ケースに入れると指先の観察がしっかりできるので、吸盤のあるなしを観察したりした。

親御さんには、卵を産む時期に田んぼに水が張っていないとオタマジャクシが生きていけないこと、吸盤のないカエルはコンクリで囲った垂直の壁を登れず、次第に数を減らしていることなどを説明した。田んぼがあるだけではなく、大草のような昔ながらの谷津田環境が丸ごと残っていないと、生きていけないいきものがあることを説明。ここ大草ではちっとも珍しくないアカガエルが、千葉市や千葉県では最重要保護生物に指定されていることを理解してもらった。

顔や姿はカエルなのにまだ尾のついたオタマジャクシ、水の上を素早く走りまわるおおきな茶色いクモ、2匹がくっついて飛ぶ青と黄色の大きなトンボなど、水辺にはカエル以外のいきものもたくさんいた。こどももその親御さんも初めての谷津田でたくさんの発見をして、あっという間の1時間半を楽しんでくれたようだ。